

## 第2回 防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略専門会議 議事録

### ■開催日時・場所

平成 27 年 7 月 27 日（月） 10 時 00 分～12 時 00 分

防府市役所 4 号館 3 階 第一会議室

### ■議事

1. 「防府市人口ビジョン（中間案）」について
2. 「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）」について

### ■配布資料

	資料名	番号
1.	防府市人口ビジョン（中間案）	【資料 1】
2.	防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）	【資料 2】

### ■会議風景



■出席者名簿

敬称略・順不同

	分野	所属団体・役職	名前	出欠
委員	教育	山口大学（大学院技術経営研究科 技術経営専攻）教授	【会長】 稲葉 和也	出席
		山口県立大学（国際文化学部 国際文化学科）准教授	【副会長】 進藤 優子	出席
	産業	防府商工会議所 会頭	喜多村 誠	出席
		防府市農業委員会 会長	藤井 伸昌	出席
		一般社団法人防府市観光協会 理事	鈴木 宏明	出席
		協和発酵バイオ株式会社 山口事業所長	古谷 将 (代理) 田中 洋一	代理 出席
		西日本旅客鉄道株式会社 防府駅長	岡田 裕哉	出席
	行政	防府公共職業安定所 所長	大野 正幸	出席
		山口県民局 局長	金子 大	出席
	教育	山口短期大学（児童教育学科）准教授	手島 史子	出席
		防府商工高校 教諭	黒川 康生	出席
	金融	山口銀行	田辺 一政	出席
		東山口信用金庫 本店長	三田 浩士	出席
	労働	連合山口県央地域協議会 委員	山根 浩二 (代理) 古都 昇	代理 出席
	言論	山口放送株式会社 ラジオ局長	黒瀬 哲哉	出席
	住民	特定非営利活動方針 コミュニティ友志会 代表	松永 朋子	出席
		防府市PTA連合会母親委員会	細野 美幸	出席
防府市自治会連合会		石竹 和歌子	欠席	
事務局	総合政策部 部長	平生 光雄		
	総合政策部 部次長	伊豆 利裕		
	総合政策部 部次長	原田 みゆき		
	総合政策部総合政策課 課長	白井 智浩		
	総合政策部総合政策課 課長補佐	齊藤 忍		
	総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 室長	桑原 明哲		
	総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室 副主幹	持溝 秀昭		
	総合政策部総合政策課企画係 主任	田中 利明		
	総合政策部総合政策課企画係 主事	飯分 徹		

## ■議事録

### 1. 開 会

---

(事務局より開会の宣言と資料の確認)

(委員紹介)

### 2. 会長あいさつ

---

稲葉会長 | 本日の会議は2回目であり、人口ビジョンと具体的な施策の話になる。事前に資料はご覧になったと思うが、本市の出生率はフィンランド並みの高水準となっている。人口は若干、減ってきているが、それでも、減少幅は小さくなっている。本日は具体的な施策の内容が出てくるので、みなさんそれぞれの専門的見地からご意見を頂きたい。前回、松浦市長から、全国のモデルにしたい旨のお話があったので、全国のモデルになるような戦略を立てたい。

(事務局より進行を稲葉会長にわたす)

稲葉会長 | 本委員会は原則公開となっているので、第2回目の会議も公開で進めたい。また、協議内容はホームページで公開するので了承をお願いしたい。議事にある「防府市人口ビジョン（中間案）について」事務局から説明をお願いしたい。

### 3. 議事

---

(事務局より資料1を説明)

会 長 | 資料1、防府市人口ビジョン（中間案）について、委員の皆さんのご意見を頂きたい。

A 委 員 | 地区別人口の推移で、増加した地区、減少した地区があるがその要因を教えて欲しい。

事 務 局 | 増加している地区は、市中心部から若干離れた地区。防府市は都市計画の線引きをしているが、平成15年頃から調整区域の連たんについては、建築が容易となったことで、住宅の開発が活発になっている。このあり方については、都市計画課において、現在、検討中。また、減少している地区は、いずれも市の周辺地区。この人口減少をなんとか食い止めたい。市長は小学校区を基本にまちづくりをやっていきたいという考えであり、戦略に盛り込んでいる。

B 委 員 | 13ページの雇用力と稼ぐ力の表で、右にいくほど、稼ぐ力が高く、上にいくほど雇用力が高いが、逆に低い業種を把握していたら教えて頂きたい。

事 務 局 | お示ししているグラフの中で最も稼ぐ力が低いのは情報サービス業になっている。

- C 委員 増田レポートでは2040年までに20歳～39歳の女性が半分になる自治体が896あるとなっているが防府市は入っていない。ただ、国は中核拠点都市をうたっているが、高次地方都市連合（60分以内の移動で30万人の都市）に現在、防府市が入っているが、2050年には外れるとされている。今後、高次地方都市連合として人口分析を行うのか教えて欲しい。
- 事務局 国は新しく連携中枢都市というものを打ち出している。20万人という要件を山口市は満たしていないが、防府や宇部などと連携した要望や取組みを行って行きたい。人口分析については現在、各市が取り組んでいるところなので、具体的な検討は行っていない。
- D 委員 11ページに平成22年の雇用形態の割合が出ており、雇用についてはまずまずという説明があったが、現在はこれよりも非正規が多いと実感している。特に男性の非正規社員が増えている。
- 事務局 直近の客観的なデータがない状況であるため、直近のデータがないか検討させて頂きたい。
- 副会長 出生率が高くなっているが、その理由がわかれば教えてもらいたい。通勤・通学の内訳がわかれば教えてもらいたい。
- 事務局 出生率の1.76という数値について、具体的な施策の効果かどうか把握できていない。通勤・通学の内訳があるかどうか確認させてほしい。
- 会長 7ページの高校卒業時に転出される方が多く、20歳から24歳の女性の転入が多いということが、21ページの将来展望に必要な調査・分析とリンクしていると考えて良いのか。
- 事務局 転入・転出に関する意向調査については、市外への転出、市外から転入された方を対象にアンケート調査を行っている。  
高校生・学生進路希望状況調査については、出て行きたい意向調査はしているが、いつ帰ってくるかという分析はしていない。女性が帰ってくる理由の分析は今後、可能であれば行いたい。
- E 委員 観光客数の推移で、平成24年に大きく客数が増えているが、その理由を知りたい。稼ぐ力で国家公務員が高くなっているが、これはどのように理解すれば良いのか。
- 事務局 観光客数が大きく増えているのは、カウントをする対象を増やしたためである。稼ぐ力は従業者数から出している。防府市のAという産業の従業者数を全国のAという産業の従業者数で割ったものである。防府市の国家公務員の数が全国平均の国家公務員の数より多いので、稼ぐ力があるという結果になっている。（自衛隊の影響）

会 長 | それでは、資料2の「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略（中間案）」について事務局から説明をして欲しい。

**（事務局より資料2を説明）**

会 長 | まず、最初に質問を出して頂き、その後に具体的な内容についての議論を行いたい。

F 委 員 | 10月末に総合戦略を完成させるということで時間がない。モデルケースにするということは、地域の特色を生かしたものということだろう。良いアイデアには国がお金や人を出す。10月を目指す上でのスケジュールやここが特色であるというものを教えてもらいたい。

事 務 局 | 特色については、小学校を中心とした15地区における取り組みに加えて、少子化や世帯数の減少に歯止めを掛けるため、多子世代家族の推進などに力を入れている。また、地域づくりと併せて、中心市街地の賑わい創出のため、市の中心地に事業所を誘致するなど商工会議所等との連携や新しい事業提案などいただけるようお願いしたい。新しい産業の創出などで若者の雇用の場も増えるのではないかと考えている。

スケジュールについては、今回、この場で新しい事業をご提案いただき戦略の中に取り入れていく。8月末にそれを反映した形で専門会議を開き、再度、委員のご意見を反映させたい。また、9月15日からパブリックコメントを行い、さらに委員の意見を頂き肉付けを行いたい。

F 委 員 | 地方の活力が失われていく中、防府市は可能性を秘めているわけだから、防府市を盛り上げていくためには、これをやるんだというものを示す必要がある。一番大事なものはこれであると出さないとインパクトがない。これを地方創生の柱にするというものが必要である。たくさん事業が書いてあるが、こういったものを国に出していくものなのか。

事 務 局 | 基本的には人口を増やしていく取組みに対して国は支援していくことになるので、ベースとしてはこの計画を肉付けしていきたい。

会 長 | 人口ビジョンと総合戦略の形式はこれになると考えている。この形式の中で、これは防府らしいなと思えるものが、盛り込まれていれば良いと思っている。

G 委 員 | 人口の増加が肝になると思う。奨学金返還制度とはどんな制度なのか。県外に出た学生に戻ってきてもらうための策があるのか。

事 務 局 | 県外から戻ってきた方には奨学金の返還を免除する制度を考えている。県外の大学に進学された方に対してはきめ細かな防府市の情報発信を行いたい。また、県外大学との

	連携については、山口県が積極的に連携を結んでいるので、県と協力して取り組んでいきたい。
G 委員	16 ページに若者の出会いの機会の拡大などが記載しているが、参考にしたい具体的なセミナーの事例はあるのか。
事務局	具体的な内容としては、民間団体等の婚活開催に関する経費等を想定している。また、県が8月に結婚応援センターを設置する予定と聞いている。
G 委員	具体的に成果が出ている事例があるのか。
事務局	カップルが成立しているところまでは把握しているが、それが結婚に至ったかは追跡が難しいと聞いている。アンケートにおいて結婚していない理由の一つに「出会いの場がない」を理由に挙げているケースも多く、出会いの場の提供という意味では有効であると考ええる。
会長	ここからは、自由なご意見を頂きたい。この専門会議は様々な専門家で構成されているが、言論と金融機関が加わっているのは、珍しいことである。それぞれの専門家の視点で自由な意見を頂きたい。
F 委員	防府は商業・観光・製造のまちである。防府には二つの港があり産業、観光、賑わい、ウォーターフロントであり、これを徹底的に賑わいの場とし、県央部への広域観光の海からの入り口にすることが必要である。クルーズ船はそれ自体がホテルにもなる。三田尻港は水深が浅いので県に要望して活性化しなくてはならない。港を活性化することで、防府の今後の賑わい、雇用、観光を考えていく必要がある。
事務局	港の機能の充実や広域観光に取り組む。国と県との連携も重要課題として要望していきたい。
H 委員	企業側からみて防府がどんなまちであって欲しいかを話したい。県外からくる職員に防府に定着してもらえれば、おのずと防府の人口は増えるのではないか。そのためには、教育などのそれなりの施設が必要である。本屋がない図書館も足りない状況下、教育関係で他市にないものを戦略に盛り込むべきである。
事務局	中心市街地の中での本屋、図書館機能の充実など検討していきたい。
C 委員	今回の目的は人口の増加でも東京一極集中の是正でもない。目的は国民の自立である。自立した結果、人口が増加するし、東京への一極集中がなくなる。目の前の手段を講じるだけでは本質的なものを見失ってしまう。あくまで、我々一市民がどれだけ自立して

いくかが重要である。プレゼンテーションで防府を語る場合、一枚のパワーポイントに私なら「人材育成のまち・防府」というキャッチフレーズを使う。将来の防府を担う子供たちの声を聞かなくてはならない。防府を支える子供たちをどのように教育していくかが重要である。人材育成の大きな柱に産業の育成などを結び付けていくことが必要である。3世帯同居など、すべてが人材育成に結びついている。市内に幸せます人材育成センターをつくろう。継続的に人材を育成していく組織を立ち上げよう。そして、そこで防府の産業を学び、生きることを学ぼうと提案したい。シビックプライドとは、当事者意識をもった自負心のことである。若者にこうしたシビックプライドを根底にした人材育成を行うべきである。人材育成を軸にした戦略を打ち立ててもらえれば大変、幸せます。

事務局 | まさにそのようなものにしていきたい。

会長 | 先ほどのC委員の意見は旗印になるものであり、これに各施策がぶら下がっていくイメージであると思う。戦略に魂を入れるようなものである。

事務局 | 是非、そういったものをご提案していただきたい。旗印を上げたい。

B委員 | 少子化による小中一貫が盛り込まれている。人数が少なくなるからこそ、少人数教育の推進など防府らしい取り組みを盛り込めるのではないか。

事務局 | 独自の学習プログラムなどを推進していく。

会長 | 少人数教育を盛り込むにしても、どこでもあるような表記ではなく、防府らしさを出して欲しい。

事務局 | 意見を参考にしたい。

I委員 | 港の話が出た。港を市民の台所として位置づける。どうして高校生などが卒業して防府を出て行くのか、どうして県外に出て行くのか若者へヒアリングする予定はあるのか。稼ぐ力のデータがあったが、稼ぐよりは休日出勤がない職場、残業がない職場を若者は望んでいる。

事務局 | 市民の台所としての港のあり方も検討したい。県外に出た若者へのヒアリングやアンケートも実施しデータを蓄積していければと思う。若者のお金を重視しない働き方についても研究していきたい。

- A 委員 15歳～29歳へのアピールが大切である。若者が故郷にやりがいを感じるか、誇りを感じるかが重要である。施策がいろいろあるが目的は何なのか。それは若者の定着でありその目標を職員が共通認識してもたないといけない。特徴がないと伝えづらい。幸せますブランドの展開は非常に良い。人に優しいまちとしても展開しているが、それで福祉に関心をもつ若者が増え、防府に定着するかもしれない。
- 事務局 戦略への反映を考えたい。
- F 委員 ヒト・モノ・カネの流出を防ぐ必要がある。港を充実させ魅力的なまちにすれば、若者も集まるまちになるのではないか。そもそも、こんなに施策が必要なのか。新たに加えるより削除したほうがよいのではないか。ひと言で言えるものをまとめて、これが今後の防府を示すものであると言えるものがなければ、インパクトがない。
- J 委員 人をいかに育てるかが企業にとっても大切である。若い職員が減ると技術の伝承面で問題が出てくる。防府天満宮は学問の神様であるが、学ぶ・育てるをキーワードにすればインパクトが出る。幸せますや天満宮を知らない人が多い。意外と近場の人が出雲大社は知っていても、防府天満宮を知らないことが多い。山口といえば防府であるというブランドイメージをつける必要がある。県外に出て行った若者に帰ってきてもらうために、子どもの頃から、防府に住むように教えていくことも大切である。「女性が活躍できるまち」が盛り込めれば、子供を育てる人が定着できるのではないか。帰ってきたらこういうメリットがあるという情報発信も必要である。
- 事務局 女性が活躍できるまちなどは大切な事項であり盛り込むことができればと思う。
- K 委員 産業力の強化を重点項目の一つに上げてもらいたいと思う。とくに企業誘致が必要である。企業を誘致できる環境が整っており、企業誘致に向けた情報発信が必要である。
- 事務局 企業誘致は積極的に取り組みたい。
- L 委員 農業においても高齢化が進んでいる。耕作放棄地が出て担い手が不足している。幸い防府においては農業大学校があり年間4～5名が新規就農者となっている。地域の協力がなくては、新規就農者の成功はありえない。地域の集落の将来についての支援も考えてもらいたい。
- 事務局 防府は6次産業化が進んでいないとの声も聞くので、今後も出向いて行き一緒になって考える取り組みを進めたいと思う。



- 副 会 長 | 資料1で防府は育てやすいまちであるというのがわかった。就職や雇用面では弱いので、それをどうするか、うまくまとめてもらいたい。
- 会 長 | 今日出た意見は戦略に反映していただくようお願いする。  
次回の会議は8月28日金曜日、午後2時からこの同じ会議室で開催する。  
(進行を事務局に返す)
- 事 務 局 | 本日頂いた貴重な提案や意見を踏まえ、人口ビジョンや総合戦略に反映させていきたい。10月の最終案の取りまとめに向けて、引き続き協力をお願いしたい。

閉会